

第 41 回 原子力関連学協会規格類協議会 議事録

1. 日時 平成27年6月11日（木）10:00～11:30
2. 場所 一般社団法人 日本電気協会 4階C, D会議室

3. 出席者(敬称略, 順不同)

出席委員：関村議長（日本原子力学会 標準委員会 委員長，日本電気協会 原子力規格委員会 委員長），金子（日本機械学会 発電用設備規格委員会 委員長），波木井（日本機械学会 発電用設備規格委員会 副委員長），宮口（日本機械学会 発電用設備規格委員会 幹事），新田（日本電気協会 原子力規格委員会 副委員長），越塚（日本電気協会 原子力規格委員会 幹事），宮野（日本原子力学会 標準委員会 フェロー委員），永田（日本機械学会 発電用設備規格委員会 原子力専門委員会 委員長）

常時参加者：伊藤（原子力安全推進協会）

代理出席：今塚（日本建築学会原子力建築運営委員会 北山代理）

オブザーバ：大沢（電事連），石出（日本溶接協会），船橋（火力原子力発電技術協会），松村（土木学会 原子力土木委員会），松澤（日本電機工業会），村井（日本電機工業会），河井（日本原子力学会），成宮（日本原子力学会）

日本機械学会 発電用設備規格委員会 事務局 高柳

日本原子力学会 標準委員会 事務局 中越

日本電気協会 原子力規格委員会 事務局 荒川，沖，田村

(23名)

4. 配付資料

- | | |
|-------------|--|
| 資料 No. 41-1 | 第 40 回 原子力関連学協会規格類協議会 議事録（案） |
| 資料 No. 41-2 | 民間規格・基準における少数意見の取り扱いについて |
| 資料 No. 41-3 | 日本原子力学会 春の年会 標準委員会規格セッション「原子力プラントの継続的な安全性向上対策採用の考え方」資料 |
| 資料 No. 41-4 | 第 2 回 日本電気協会原子力規格委員会シンポジウム実施報告（速報） |
| 資料 No. 41-5 | JEAC4201「原子炉構造材の監視試験方法」（2013 年追補版）の技術評価対応状況について |
| 資料 No. 41-6 | 技術評価対応要領の策定について |
| 資料 No. 41-7 | 原子力関連学協会規格類協議会 幹事会議事概要（案） |
| 参考資料-1 | 原子力関連学協会規格類協議会 名簿 |
| 参考資料-2 | 原子力関連学協会規格類協議会 運営要綱 |
| 参考資料-3 | 日本機械学会 発電用設備規格委員会 制定規格 |

参考資料-4 一般社団法人 日本原子力学会 標準委員会 標準の策定と技術評価に関する状況

参考資料-5 日本電気協会 原子力規格委員会 策定規格

5.報告事項

(1) 委員変更及びオブザーバ出席の紹介

事務局より、委員変更、代理出席者及びオブザーバ出席者の紹介があった。

(2) 前回議事録確認

事務局より、資料 No. 41-1 に基づき、前回議事録(案)について紹介があり、原案通り承認された。主な質疑、コメントは以下のとおり。

- ・後ほど報告したいが、6月4日の原子力規格委員会 第2回シンポジウムに参加頂き感謝。今後とも規格類協議会に参加して頂いている各団体に協賛、協力をお願いしたい。

(3) 報告事項

1) 民間規格・基準における少数意見の取り扱いについて

各学協会より、資料 No. 41-2 に基づき、民間規格・基準における少数意見の取り扱いについて報告があった。主な質疑、コメントは以下のとおり。

- ・この資料では内部意見・外部意見と分けているが、コンセンサスペースで規格を作っていることを考えると、更にしっかりとコンセンサスが得られるためにはどうすれば良いか、ということを考えてほしい。規制委員会と意見交換会での意見は、規格策定だけではなく学協会全体で答えてほしいということであり、先日の原子力規格委員会シンポジウムにおいても規制庁基盤課長から、技術的根拠について研究論文の公表等を通じて信頼性を高めてほしい等の挨拶があった。

学協会全体の活動に関してコメントを頂いたと理解しており、特に研究発表の場がない電気協会の問題として考える必要がある。ご意見を聞くという観点から、シンポジウムは一つの方策であるが、十分ではないと思えるため更に検討を進めてほしい。

- ・内部意見に関しては少数意見で良いが、外部意見に対して少数、多数という考え方はない。意見をどう取り入れるかをコンセンサスペースで実施していることを明記した方が良い。

→ 拝承。継続的に幹事会で検討することとしたい。

2) 各学協会からの報告

各学協会から、以下のとおり、各学協会の活動状況の報告があった。

i) 日本原子力学会

日本原子力学会より、資料 No. 41-3 に基づき、原子力学会 春の年会 標準委員会企画セッション3 原子力プラントの継続的な安全性向上対策採用の考え方(その2)の実施状況の報告があった。主な質疑・コメントは以下のとおり。

- ・規格化については、技術レポートしてまとめる予定。事業者、JANSI 等とより議論をしていき

たい。

- ・バックフィットはどうあるべきかともつながる議論を実施している。継続的に規格類協議会での報告をお願いしたい。

ii) 日本電気協会

日本電気協会より、資料No. 41-4～6に基づき、第2回原子力規格委員会シンポジウム実施報告、JEAC4201「原子炉構造材の監視試験方法」(2013年追補版)の技術評価対応状況及び技術評価対応要領策定の報告があった。主な質疑・コメントは以下のとおり。

(シンポジウム)

- ・電中研原子力リスク研究センター アポストラキス所長、電事連 豊松氏から、有益なプレゼンテーションをして頂き感謝。
- ・パネルディスカッションにおいて、非常に良いディスカッションができたが、アポストロキス所長が、日本にもこうした方が良いと言っていたことに対して、なぜうまくいかないのか、実際にどう動かしていくかが課題と思う。学協会として、どのように寄与できるかを考えていかないといけない。
- ・議論が単発でおわるのはもったいないので、同じテーマで切り口を変えて継続して議論していても良いのではと思う。先ほどのコメントに対して、できなかった要因は何かということの切り口にして、次回のパネル討論としても良いのではないか。
- ・原子力規格委員会の規格の活動状況の報告の部分以外は、規格類協議会のシンポジウムとしても良いようなテーマを実施している。次回に向けて検討をお願いしたい。

(技術評価対応)

- ・引用論文データの取り扱いについて、機械学会では開示制限のあるデータの取り扱いを定めているので、参考としてはどうか。

3) 協議会幹事会からの報告

事務局より、資料No. 41-7に基づいて、原子力関連学協会規格類協議会 幹事会議事概要についての報告があった。主な質疑・コメントは特になし。

6. その他

- ・次回の協議会開催日時は、平成27年9月15日(火) 10:00からとした。

以上